

第1回地域委員会における委員からの主な意見と対応状況

委員会	該当政策	委員意見	対応状況
<全般、総論などに関するご意見>			
1	県西部①	総論	<p>県西部の特徴として三世帯同居が非常に多い。現状認識のところには少し言葉が入っているが、家庭の力や教育のところなどで三世帯同居という言葉を出して、もっと強くアピールしてはどうか。</p> <p>計画骨子案「総論編」において、本県の子育てしやすい環境の例示として、三世帯同居世帯の多さを記載しているところであるが、三世帯同居の多いことをメリットと受け取らない人がいることも考慮する必要がある。</p> <p>県では、三世帯同居に対する支援として、住宅の取得やリフォームを行う場合の利息相当額を全額利子補給することにより実質無利子化する制度や、住宅取得時の不動産取得税を減免する制度などを設けているところであり、こうした支援の推進により、子供を生き育てやすい地域の構築に努めてまいりたい。</p>
2	県西部①	総論	<p>中央のメディアがやっている「住みよさランキング」等において県内の市町村が高評価を受けていることをもう少し利用してはどうか。</p> <p>計画骨子案「総論編」において、本県の強みの一つとして、「全国トップクラスの暮らしやすさ」を記載しているところであるが、中央のメディアによる各種ランキングにおいて県内の市町村が高評価を受けていることを活用することは重要と考えており、本県への移住の促進など具体の施策の推進に当たっては、そうしたランキング結果も活用した魅力発信に努めるなど、各市町村とも連携して取り組んでまいりたい。</p>
3	県西部①	地域別	<p>地域のブロック分けについて、県西部6市の連携は大事なことではあるが、高岡・射水地域と砺波地域を1地域にまとめて全3地域とすることに対しては、砺波地方の人間にとっては抵抗、違和感がある。現行計画のように4地域とするのが厳しいのであれば、県西部地域の中でも(太い)ミシン目を入れてもらいたい。</p> <p>ご指摘の趣旨を踏まえ、「地域別の特性と取組み」については、現行計画と同様に、県内を日常生活圏や行政サービスの提供単位として定着している4つの地域(新川、富山、高岡・射水、砺波)に分けて記載し、また、県西部地域における「連携中枢都市圏」の取組み例についても併せて記載することとしている。</p> <p>なお、具体的な事業の実施にあたっては、それぞれの地域を越えて取り組むことが必要な場合もあることから、地域区分については、柔軟に捉えることとしている。</p>
4	県西部①	地域別	<p>最近、酒米に力を入れているので、このあたりも触れていただきたい。</p> <p>「地域別の特性と取組み」の砺波地域の<取組みの方向>【活力とやま】の「特色ある農林水産業の振興」における農産物の主要例に「酒米」を記載している。</p>
5	県西部①	全般	<p>見せ方、PRの仕方に知恵を出して、富山県らしさの中で、世界中もしくは日本の他県よりも特化したような県のイメージづくりが非常に大事。</p> <p>各政策に掲げる具体の施策を推進するに当たり、効果的と考えられるPR・広報手法を採用することとしているところであるが、委員ご指摘の趣旨も踏まえ、より効果的なPR・広報に努め、世界や日本国内において存在感のある県としてのイメージづくりにつなげてまいりたい。</p>
6	県西部①	全般	<p>「多様性」という言葉をぜひもう少し取り上げていただきたい。人口が減少している今こそ、人材に対しても新しいものへ対応していく力が必要であり、男性や女性、障害者や健常者というレッテルにとらわれず、この人に本当に向いているものをじっくり見たり、一人一人の有用性のようなものを感じられるチャンスではないか。</p> <p>計画骨子案「総論編」において、それぞれのライフステージにおいて、健康で生きがいをもち、意欲や能力に応じて活躍するとともに、若者、女性、高齢者、障害者など多様な人材が共生できる社会の実現に向け、人づくりに関する取組みを進める旨記載しているほか、個別の政策においても「多様(性)」に留意した取組みについて記載しているところである。</p>
7	県西部①	全般	<p>西部6市における交流の拡大や産業・文化の振興に寄与するような、広域的な県立の中核施設の設置をお願いしたい。</p> <p>新たなスポーツ・文化等多目的施設については、今年度、幅広く県民の意見を聞くアンケート調査を実施することとしており、こうした県民のニーズなども踏まえて総合的に慎重に検討を進めてまいりたい。</p>

	委員会	該当政策	委員意見	対応状況
<活力分野に関するご意見>				
【展開目標1】グローバル競争を勝ち抜く力強い産業の育成と雇用の確保				
8	県西部①	活力8	商店街と大型商業施設が対立するものという発想から離れて、両者が連携するような形の取組みに関する記載があってもいいのではないかと。	活力8の【主な施策】の「2 魅力ある商店街づくりと人材の育成支援」において、「環境変化への対応等に向けた商店街の新たな取組みに対する支援」を記載している。
9	県西部①	活力6	地元の中小企業が自社ブランド性を出したいという努力をしているので、そういったものに特化したような制度があってもいいのではないかと。	活力6の【主な施策】の「2 新事業展開、販路開拓、新商品・新技術の研究開発への支援」に記載しているとおり、中小企業の新商品・新技術等の開発については、中小企業支援チャレンジファンドによる地域資源の活用や農商工連携による開発支援、また、総合デザインセンターを中心としたデザイン相談や商品の共同開発等を実施している。また、あらゆる相談に対応する「よろず支援拠点」も設置されているので、気軽にご相談・ご利用いただけるよう周知等に努めてまいりたい。
10	県西部①	活力6	小規模零細企業の廃業等に歯止めがかからない。小規模事業者は、売上減少や従業員不足に大変な苦勞をしており、行政として更なる支援が必要。	活力6の【主な施策】の「4 人材の育成と確保への支援」において、「後継者人材バンクを活用した起業を希望する者と後継者不在の中小企業とのマッチング支援」を記載している。創業を志す人の創業実現と、後継者不足に悩む商店の後継者対策の両面での効果を期待している。
11	県西部①	活力10 未来24	今の若い人たちはわくわくする職場を求めている。県内の中小企業が、県外からの移住者を対象とした新しい特別採用枠を作るようなチャレンジ的な取組みをやっていけば、富山の面白さ、わくわく感が高まるのではないかと。	活力10の【主な施策】の「2 県内産業の発展や新しい働き方の導入による雇用創出」において、新たな成長産業の育成や企業誘致等のほか、新しい働き方に対する企業の取組促進による魅力ある職場の確保について記載している。 また、移住に関しては、未来24において、本県の恵まれた就労環境のPRや暮らしと仕事の一元的な相談体制の充実、本県出身者への効果的な情報発信によるUターンの促進(Uターン希望者と県内企業のマッチング支援等)について記載するなど、引き続き移住の促進に努めることとしている。
12	県西部①	活力1	労働生産性を第4次産業革命のIoTなどを駆使して上げていくと計画されている。それぞれの内容についてはなかなか難しい点もあるが、この点の強化・推進をお願いしたい。	活力1の【主な施策】の「1 IoT、AI、ロボットの導入など新たなものづくり基盤の強化」において各施策を記載しており、県内企業のIoT導入を一層促進し、生産性の向上、新たな付加価値創出につながるよう各種事業に取り組んでまいりたい。
13	県西部①	活力9	環日本海地区のロシア、中国、韓国、さらには東南アジアの企業と県内企業とのビジネスマッチングという観点にも重きを置き、これらの取組みも強化していただきたい。	活力9の【主な施策】の「1 海外ビジネス展開の促進」において、富山県ものづくり総合見本市や海外からバイヤーを招へいた商談会の開催等について記載し、引き続き、県内企業と外国企業との商談機会の創出に取り組むこととしている。
14	県西部①	活力3	県工業技術センターやものづくり研究開発センターが立地している二上地区において、富山大学で構想されている研究センターの誘致等により、呉西圏域はもとより県全体のものづくり研究拠点の一層の充実をお願いしたい。	県では、アルミ素材などの分野において、産学官連携によるコンソーシアムの形成に加えて、とやまナノテククラスターでセルロースナノファイバーの研究を推進するなど、高機能素材関連産業の振興に取り組んでいる。 さらに、活力3に記載しているとおり、今年度、ものづくり研究開発センターに「製品機能評価ラボ」、「セルロースナノファイバー製品実証・試作拠点」を整備し、製品評価機能の充実と新素材の応用による実用化研究など、企業の製品信頼性の向上や新技術・新商品の開発支援に取り組んでいくこととしている。 なお、委員ご指摘の、富山大学における「国際連携先端材料研究センター」については、学内で検討中であると聞いているが、設置を進められるということであれば、県としても側面支援してまいりたい。

	委員会	該当政策	委員意見	対応状況
15	県西部①	活力7	県総合デザインセンターの拡充に合わせて、高岡市デザイン工芸センターとの連携強化による、県全体のデザインの振興拠点づくりをお願いしたい。	活力7の【主な施策】の「2 国内外とのデザイン交流の促進」に、「クリエイティブ・デザイン・ハブを核とした幅広い産業分野における国内外デザイナー等との連携促進」を掲げており、高岡市デザイン・工芸センターとも連携しながら、デザイン振興の拠点づくりを進めてまいりたい。
【展開目標2】生産性・付加価値の高い農林水産業の振興				
16	県西部①	活力11	「富富富」のようなブランド米や飼料米の中間に位置する業務用米についても記載すべきではないか。	活力11の【取組みの基本方向】において、「需要に応じた米生産」を記載しており、「富富富」の戦略的導入、需要が増加傾向にある業務用米や飼料用米などの非主食用米など、多様なニーズ・用途に応じた生産により、富山米の需要量の確保を図ることとしている。
【展開目標3】環日本海・アジア新時代に向けた陸・海・空の交通基盤等の強化				
17	県西部①	活力19 活力20	ものの流れを考える場合、東海北陸道から能越道の4車線化に合わせて、伏木富山港とのセットで考えることがこれから非常に必要になると思うので、ここを強く打ち出してほしい。	活力19の【主な施策】の「1 高速道路ネットワーク等の整備と活用」において、「東海北陸自動車道」及び「能越自動車道」を掲げている。東海北陸自動車道については全線4車線化、能越自動車道については、石川県内に未整備区間が残っているため、まずは早期全線開通に向け、取り組んでまいりたい。 また、活力20の【主な施策】の「1 港湾機能の充実」に「臨港道路など港湾へのアクセス道路の整備」、そして、「2 環日本海地域やアジアとの物流の活性化」に「東海北陸自動車道の付加車線設置など伏木富山港へのアクセス向上を活かした県内外からの集荷促進」を施策として掲げている。今後も、東海北陸道や能越道を活用した伏木富山港の集荷促進に努めてまいりたい。
18	県西部①	活力18 安心25	あいの風とやま鉄道の支援のところに「枝線との接続」が記載されていない。地域交通の充実のところには記載があるので、どちらも表裏一体だと思いが、あいの風とやま鉄道は枝線との接続を忘れてしまったのかなと思われぬようにしたいのではないか。	活力18の【主な施策】の2において、「あいの風とやま鉄道と他の交通機関の接続利便性の向上等に向けた連携協力の推進」の追記について引き続き検討。
19	県西部①	活力19	能越道福岡インターの早期の無料化にむけた取組みが必要。	活力19の【主な施策】の「1 高速道路ネットワーク等の整備と活用」において、「能越自動車道の利便性向上」を掲げている。有識者などからなる利便性向上対策検討会において、「福岡本線料金所は撤去し、料金所を小矢部東本線料金所の一ヶ所に統合する」との基本的な考えが取りまとめられたところであり、現在、この基本的な考え方に沿って国など関係機関と協議を進めているところである。
20	県西部①	活力20	海、富山湾、港をしっかりと活かしていくことが大事。旅客ターミナルの整備など、外国からの観光客に対応した受け入れ態勢整備にしっかりと取り組みながら、海からも人を入れていくという取組みにぜひ力を入れていただきたい。	活力20の【主な施策】の「3 クルーズの振興」において、「クルーズ客の安全性、利便性の確保等を図る施設の整備」を施策の1つとして掲げている。クルーズ客船受入れのための港湾施設の整備については、今後のクルーズ客船の配船動向を踏まえて対応を検討してまいりたい。
21	県西部①	活力17 活力21	新幹線ができてから関東方面の方は非常に増えたが、逆に関西方面の方が非常に少なくなってきた。あまり新幹線ばかりではなくて、違う形でもっと来ていただけるようにすべき。また、県内の観光地へのアクセスの充実も必要。	活力17の【主な施策】の1に記載している「交通事業者、大手旅行会社等と連携したプロモーション」などにより、新幹線開業効果の持続・深化に向けて、引き続き取り組んでまいりたい。 加えて、活力21の【主な施策】の1に記載の「羽田空港などにおける国際線も含めた乗継利用の利便性向上やPR」や「西日本方面への新規路線開拓に向けたチャーター便運航への支援」など、新幹線以外の手段による本県への誘客促進も図ってまいりたい。 また、県内の観光地へのアクセスについては、活力17の【主な施策】の4において「広域交通ネットワークの充実」を記載しており、新幹線駅や空港と観光地を結ぶバスの運行支援などにより充実を図ってまいりたい。

委員会	該当政策	委員意見	対応状況
【展開目標4】観光振興と魅力あるまちづくり			
22	県西部① 活力28 活力23	地域の経済力を維持するためには外国人観光客に頼らざるを得ない。そのためにも、言葉のバリアフリーと運賃のバリアフリーが必要。また、JRの外国人観光客向けのフリー切符の中にオプションとして県西部の公共交通を自由に利用できる仕組みも載せてもらえるよう、官民が一体となって取り組むべき。	言葉のバリアフリーについては、活力28【主な施策】の「2 グローバル化に対応した次世代の観光を担う人づくり」に「外国人旅行者に対応した接遇やサービスを提供できる人材の育成」を記載している。 また、運賃のバリアフリーについては、現在、立山黒部エリアにおいては、訪日外国人向けフリーきっぷのオプション券があり、県西部エリアへの拡大については、今後、交通事業者に働きかけてまいりたい。
23	県西部① 活力30	災害の少なさや、観光や農産品、産業など、本県の良さについてしっかりとブランド化をして、国内外に今まで以上に発信していくことが必要。	活力30の【主な施策】において、富山を代表するブランドの価値向上や、新たなブランドの育成、また、日本橋とやま館などを活用した富山の上質なライフスタイルの発信などを通じた富山のブランドカアップに向けた取組みについて記載している。今後も、豊かな自然や食、文化をはじめとする様々な魅力を発信することにより、富山県の地域イメージの向上に努めてまいりたい。
24	県西部① 活力25	「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟が認められた富山湾の魅力を世界に打ち出しながら、外国のいろいろな所から人を呼び込む取組みにぜひ力を入れていただきたい。	活力25の【主な施策】の「4 富山湾の魅力の戦略的な情報発信」において、『「世界で最も美しい湾クラブ」の総会誘致等による国内外への魅力の発信」を記載している。これまでも中国・台湾をはじめとした国外に対して富山湾の魅力を発信した誘客プロモーションを実施してきたところであるが、湾クラブ総会の誘致を視野に今後さらに富山湾の魅力発信に取り組んでまいりたい。
25	県西部① 活力23	観光客数が新幹線開業前に近い数字になっており、特に団体が減っている。観光PRを新幹線開業時だけの一時的なものとするのではなく、持続させることが必要。もっとマスコミ等をうまく活用すべき。	活力23の【取組みの基本方向】において、「ターゲットに応じた媒体選定による魅力発信やプロモーションの推進」を記載している。現在、北陸新幹線開業効果を持続させるため、北陸三県及び交通事業者が連携したプロモーション等を行っており、今後も、マスコミ等をうまく活用したPRに努めてまいりたい。
26	県西部① 活力23	観光関係でいろいろな文化財などが出てきているが、それをうまく面につなげる形で宣伝していく必要がある。五箇山から城端、砺波を通して氷見に至るまで、さらに能登へ至るルートというものは観光資源としては大変良い価値があると思うので、この点に関する政策を重点化し、より具体化した形で展開していくことが重要である。	活力23の【取組みの基本方向】において、「新幹線駅と観光地を結ぶネットワークの強化などにより、本県を滞在拠点とした広域観光の促進」について記載している。現在、高岡と五箇山・白川郷を結ぶ世界遺産バスや高岡と氷見・能登を結ぶわくライナーの運行支援等を行っており、今後も、県西部の豊富な観光素材を活かした観光誘客に努めてまいりたい。
27	県西部① 活力27	映画・ドラマ等の制作誘致に関して、現在、県を先頭に「義仲・巴」の大河ドラマ化という明確な目的のもと広域的な取組みを進めているので、ぜひ総合計画上の文言としても取り上げてほしい。	活力27の【主な施策】の2において、『「義仲・巴」を主人公としたNHK大河ドラマ等の誘致活動の推進」の追記について引き続き検討。 「義仲・巴」の大河ドラマ化については、県内外のゆかりの41自治体と連携し、誘致活動を行っているところであり、今後とも関係自治体と連携し、「義仲・巴」のNHK大河ドラマ誘致活動を進めてまいりたい。

委員会	該当政策	委員意見	対応状況
<未来分野に関するご意見>			
【展開目標1】結婚・出産・子育ての願いがかなう環境づくり			
28	県西部①	未来1	<p>子育て支援という点から、最近では産後ケアが非常に重要。産後ケアなどに取り組む人的な支援やいろいろなサポートを頂ければ非常にありがたい。</p> <p>未来1の【主な施策】の「4 母と子の健康づくりへの支援」において、「子育て世代包括支援センターを整備する市町村に対する連絡調整や技術的支援の実施」と「妊産婦のメンタルヘルスの保持や産後うつや早期発見等への支援」を記載している。今後とも、医療圏毎に医療機関関係者と市町村の連携体制を構築する「ネットワーク会議」の開催や、市町村関係職員や助産師、看護師等を対象とした研修会や事例検討会を通じた人材育成などを実施し、市町村の取組みを支援してまいりたい。</p>
29	県西部①	未来3	<p>子どもを産み育てながらも仕事ができることを考えたとき、自宅で仕事をしなくてもできない人を対象に、空き家を活用して、わずかな時間単位で借りられるような仕事場、オフィス、作業場を整備するなど、女性の定着につながる仕掛けを考える必要がある。</p> <p>未来3の【主な施策】の「1 仕事と子育てが両立できる職場環境の整備」に「子育て期の多様な勤務形態(短時間勤務等)の導入」として記載済み。 時間や場所にとらわれない柔軟で多様な働き方を支援し、女性の定着につながる仕掛けについて今後も検討してまいりたい。</p>
30	県西部①	未来4	<p>第2子の壁ということで、県では2年前から第3子の保育料が無料化になっているが、それでは足りないということで、氷見市では今年から第2子の無料化を始めたが、これを県全体で取り組んでいただけるとありがたい。</p> <p>県では、限られた財源のなかで、特に経済的負担の重い多子世帯を重点的に支援している。 幼児教育・保育の無償化については、国の動向を踏まえて検討してまいりたい。</p>
【展開目標2】真の人間力を育む学校教育の振興と家庭・地域の教育力の向上			
31	県西部①	未来9	<p>学校のICT教育をやることによって、子どもたちが自分で考えて能動的に勉強する仕組みができると思うので、そんな取組みもしていただきたい。</p> <p>未来9の【主な施策】の「1 確かな学力の育成」において、主体的で深い学びを促すICT教育について記載している。 本県では、「情報モラルを身に付け、情報及び情報手段を適切に選択・活用できる児童生徒を育てる」ことを目標に、小学校では情報手段に慣れ親しみ、ICTの基本的な操作を身に付け、適切に活用する学習活動の充実を、中学校では情報手段をさらに主体的に活用する学習活動の充実を図るように指導計画を工夫している。 県立学校では、ICT機器の配備が完了した学校から、主体的・対話的で深い学びに繋がる学校独自の目標を定め、その達成に向けた取組みを進めている。 今後とも、ICTを効果的に活用し、主体的・対話的で深い学びを実現するよう取り組んでまいりたい。</p>
32	県西部①	未来9	<p>製造業においては工業高校卒の社員採用が困難である。先を見通した富山県としての教育体系・計画への取組みが重要な課題である。</p> <p>未来9の【主な施策】の「2 社会で生きる実践的な力の育成」において、「高校におけるインターンシップや企業経営者等による講演、(工業科の生徒を対象とした)高校生ものづくりマイスターの認定など、職業観や勤労観を育む教育の推進」について記載している。 引き続き、製造業をはじめとする県内企業と連携しながら、ものづくり人材の育成を推進するとともに、高校生に対し、県内企業の魅力をしっかり伝えていくように努めてまいりたい。</p>
33	県西部①	未来11	<p>高校生の受け皿となる県内大学等の高等教育機関の入学定員の確保・充実等についての記述も検討すべき。</p> <p>未来11の【取組みの基本方向】及び【主な施策】の「2 高等教育機関による地域連携や地方創生の取組みへの支援」において、「入学定員の確保や県内からの志願者・入学者の増加の取組み」の追記について引き続き検討。</p>

委員会	該当政策	委員意見	対応状況
【展開目標3】文化・スポーツの振興と多彩な県民活動の推進			
34	県西部①	未来23	外国人労働者の増加に伴い、市内の小中学校において日本語指導が必要な外国の子どもが増えてきている。今後、外国人児童の教育体制についても目を向けるべき。 未来23の【主な施策】の1において、「外国人児童生徒の学習をサポートする取組みに対する支援」を記載している。 県教委では、国の加配等を活用して、「外国人児童・生徒等日本語指導教員」を配置し、日本語指導や生活相談・生活指導など、個々に応じた支援を行っている。また、県単独措置として、母語に対応できる「外国人相談員」を配置し、外国人児童生徒や保護者に対する通訳のほか、学校生活や進路に関する相談等に応じている。 今後とも、市町村教育委員会や学校の意見を聞きながら、適正な配置となるよう努めるとともに、加配措置の充実について、国に働きかけてまいりたい。
35	県西部①	未来20	地域の高齢者と触れ合うジュニア福祉活動など、ボランティア活動ができる子どもたちを育てる教育の重要性についてこれからもアピールしていただきたい。 未来20の【主な施策】の1において、児童生徒のボランティア体験学習を記載済み。今後ともボランティア活動ができる子どもたちを育てる取組みを支援してまいりたい。
【展開目標4】ふるさとの魅力を活かした地域づくり			
36	県西部①	未来24	総合計画の推進に伴い、教育環境、交通などの利便性、生活環境が充実されたいいわゆる「キャラが立った地域」が県内各地に出てくると思うが、そうしたエリアを移住を希望する県外の方に発信するような取組みがあってもよいのではないかと。 未来24の【取組みの基本方向】において、本県の魅力である、暮らしや仕事、自然環境などの発信を強化し、「くらしたい国、富山」のイメージの定着を図ることとしている。 また、具体的な地域の魅力等については、インターネット等によるPRや、移住希望者との相談業務の中で紹介することとしたい。
<安心分野に関するご意見>			
【展開目標1】いのちを守る医療の充実と健康寿命日本一			
37	県西部①	安心6	DVや虐待など、何かあったときはちゃんと守るといふ地域であることが、住みたい地域、女性活躍の大前提。そのためにも、シェルターについての検討や市民グループ・NPOの活動の活用が必要。 安心6の【主な施策】の「2 配偶者等からの暴力(DV)のない社会づくり」において、「民間団体との協働」を記載している。シェルターについては、必要性などを踏まえ、検討してまいりたい。
【展開目標2】住み慣れた地域で安心して暮らせる福祉の推進			
38	県西部①	安心10	幼児教育者、保育士が不足しているため、幼児教育をする指導者、教育者、保育士などを育てることから、よい子どもづくり、人づくりをしていく必要がある。 安心10の【主な施策】に「5 保育士等の人材確保と就業継続の支援」を記載している。保育士の人材確保は重要な課題と考えており、処遇改善や「富山県保育士・保育所支援センター」において求職者への就職先のあっせん等を行っているが、今後とも、保育士の待遇改善や育成・確保に努め、保育環境の更なる充実に努めてまいりたい。
【展開目標4】災害に強く、「日本一安全・安心な県」づくり			
39	県西部①	安心25(活力17)	二次交通、三次交通のインフラ整備が大事であり、特にタクシーの利便性が大きな鍵を握っていると思うが、現在のタクシーの利便性は十分とはいえない。公共交通機関の選択と集中が必要であり、どの公共交通機関に特化して資本を投入していくかの検討が必要。 安心25の【主な施策】の3において、コミュニティバス等から、バスや乗合タクシーなどの乗降場所・時刻等を弾力的に運行する公共交通の形態である「デマンド型交通」への転換等の支援について記載している。 今後とも、デマンド型交通の推進など地域の実情とニーズに対応した公共交通ネットワークの確保・充実に努めてまいりたい。
40	県西部①	安心25	電車やバスの利用、各種ポイントサービスやショッピングもすべて1枚のICカードで取扱いができるようにするなど、一歩リードする取組みが大事。 安心25の【主な施策】の2において、交通ICカードの導入促進について記載しているが、まずは、公共交通の利用促進及び利便性向上につながるよう県内交通事業者の交通ICカードの導入を促進してまいりたい。

	委員会	該当政策	委員意見	対応状況
41	県西部①	安心25 活力18	氷見線・城端線の直通化とあいの風とやま鉄道との連携をぜひお願いしたい。	城端線・氷見線の直通化については、沿線4市等で構成する「城端・氷見線活性化推進協議会」において検討が進められているところであり、安心25の【主な施策】の2に記載している「JR城端線・氷見線などの活性化策への支援」の中で、必要な支援等を行ってまいりたい。 また、城端線・氷見線とあいの風とやま鉄道との連携については、安心25の【主な施策】の1や、活力18の【主な施策】の2において「交通事業者間の連携協力の推進」を記載し、取り組んでいくこととしている。

＜人づくり分野に関するご意見＞

【テーマ1】富山県や日本を担う子どもの育成

42	県西部①	人づくり1	将来、今の子どもたちがAIを使いこなすためには、それを使う人間の感受性の豊かさや共感性、コミュニケーション能力が必要になり、そのベースは道徳心ではないか。AI時代に備える意味でも、小さいうちからの道徳教育の充実が必要。	人づくり1の【主な施策】の「2 豊かな心の育成と道徳性の涵養」において、道徳教育の充実について記載している。 なお、学習指導要領の改訂により道徳の時間が教科化され、小学校は平成30年度から、中学校は平成31年度から「特別の教科 道徳」として全面実施となり、道徳教育の充実が図られることになる。本県においてはこれまでも、「豊かな心の育成」を教育指導の重点として道徳教育に取り組んでいる。道徳の時間の教科化に伴い、より一層の道徳教育の充実に取り組んでまいりたい。
43	県西部①	人づくり1 人づくり2	大学の入試制度が変わっていく中で、教育県・富山が今後どういう子どもたちを育て、もしくは本物の人間形成や本物の感じ方やコミュニケーションなどをどう教育の中に入れていくかということを経済計画の中でもう少し明確に打ち出すべき。	少子高齢化や情報化、グローバル化などが進展する中、夢や志、情熱をもって、未来を切り拓く人材の育成に積極的に取り組むこととしている。 本計画においても、例えば、人づくり1では優れた知性、豊かな心、たくましく生きるための体力を身につけること、人づくり2では将来の夢や目標を持って、チャレンジ精神あふれる子どもが育っていることを政策目標として掲げている。こうした目標の下、未来、人づくりの各分野の【主な施策】において、「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)の視点からの授業改善など確かな学力の育成をはじめ、いのちを大切にすることや自ら課題を解決する能力、コミュニケーション能力の育成などの取組みについて記載している。 今後、ご意見の趣旨を踏まえ、各施策をしっかりと推進してまいりたい。
44	県西部①	人づくり1	「人づくり」で「優れた知性、豊かな心、たくましい体を持った子どもの育成」とあるが、子どもの豊かな心を育てる環境の整備が必要。	人づくり1の【主な施策】の「2 豊かな心の育成と道徳性の涵養」において、関連施策を記載している。 本県では、「自らの生き方を見つめ、心豊かでたくましく生きる児童生徒を育てる」ことを目標に、学校教育全体を通じて道徳教育を展開できるよう道徳教育の全体計画と「特別の教科 道徳」の年間指導計画を作成している。また、道徳的価値の自覚を深め、道徳性を育成できるように「特別の教科 道徳」の授業を積み重ね、道徳性を養う学校、学級づくりに努めている。 今後とも豊かな心を育てる環境の整備に取り組んでまいりたい。